

「出会った形に触発される
ことはある。創作する時に
思案することはない。
私の内部から自ずと生じて
くるものを形にするだけだ。」

ニッポンのニッポン、
日本的なるものの寡黙な美
へと導いてくれたのは
京都の陶芸家山田光の
言葉であった。

ヘルムート シュミット

**'It is possible that
I was inspired
by a form which
I once encountered.
I have never
thought about how
I create. I form
my objects as they
arise within me.'**

**Hikaru Yamada's
words lead me to
nippon no nippon to
the quiet beauty
of things Japanese
helmut schmid**

nippon no nippon no nippon



京都 dddギャラリー
第205回企画展

ニッポンのニッポン
ヘルムート シュミット

2015年11月9日^月 -
12月22日^火

kyoto ddd gallery
the 205th exhibition

nippon no nippon
helmut schmid

november 9 to
december 22, 2015

kyoto ddd gallery
the 205th exhibition

nippon no nippon
helmut schmid

Shortly after my arrival as a 24 year old in Osaka, I got a letter from the editor of the Swiss magazine Typographische Monatsblätter, inviting me to write contributions about Japanese forms and objects from a typographers viewpoint. The first article, Tatami, appeared in 1968. I named the articles Japan japanese to show my own understanding of Japan: a Japan which existed and still exists, yet one which needs to be discovered. My contributions appeared full-page, the black and white photos were taken, with exceptions, with photographer friends.

After 40 years the articles were given new life. Japan japanese was published in 2012 by Robundo Publishers in German, English and Japanese. The exhibition, nippon no nippon, at kyoto ddd gallery, started with this book.

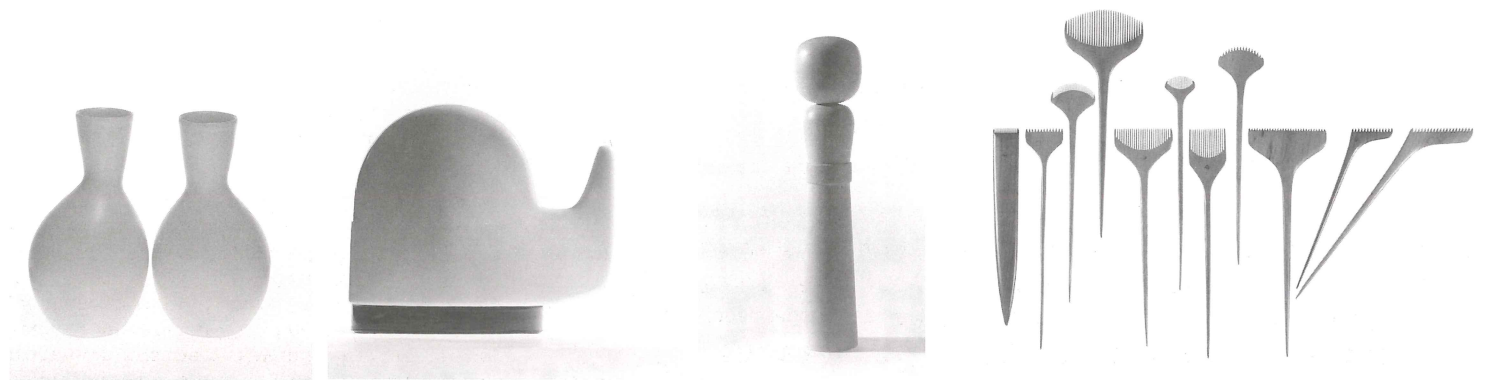
nippon no nippon

京都 ddd ギャラリー
第205回企画展

ニッポンのニッポン
ヘルムート・シュミット

24歳で初めて大阪の地を踏んで間もない頃、スイスのティポグラフィシェ・モナーツ・ブレットル(TM)誌の編集長より手紙を受け取った。タイポグラフィの目を通して見た、日本のフォルムや暮らしの中の道具といったものを紹介する記事を連載してみないかという誘いであった。最初の記事「畳」が登場したのは1968年であった。このシリーズを「Japan Japanese」(ニッポンのニッポン)と呼ぶことにした。というのは、私自身が理解している日本、すなわち、かつて存在した、そして今も存在している日本、さらにこれから発見されるべき日本を伝えたいと思ったからだ。この記事で使ったモノクロ写真は、僅かな例外をのぞいて、カメラマンの友人たちと撮影した。

40余年の時を経て、記事は新しい命を授かった。2012年、「Japan Japanese」は朗文堂より独・英・日本語で出版された。京都 ddd ギャラリーでの展示「ニッポンのニッポン」はこの本をきっかけに企画された。



tokkuri
Hikaru Yamada

徳利
山田光

rotary dispenser
Sori Yanagi

ロータリー・ディスペンサー
柳宗理

kinakina

キナキナ

kushi

櫛

Helmut Schmid, born in Austria, studied under Emil Ruder at the Basel School in Switzerland. Mid 1970s worked in West Germany for the chancellors Willy Brandt and Helmut Schmidt. Helmut Schmid designed packaging identity for ethical drugs of Otsuka Pharmaceutical and product logos for Shiseido. He works in Osaka on projects self-initiated and commercial. Since 1992 he has published his typographic reflections. Book design: Hats for Jizo (1988), paper-cut-prints by Nicole; the road to Basel (1997/2003) by Robundo Publishers. typography today (1980/2015) by Seibundo Shinkosha.

ヘルムート・シュミット、オーストリア生まれ。スイスのバーゼルスクールにてエミール・ルーダーのもとで学ぶ。1970年代中頃、西ドイツでウィリー・ブランド、ヘルムート・シュミット両首相のための制作活動に携わる。大塚製薬医家向け医薬品のパッケージアイデンティティの確立、資生堂化粧品ロゴデザインなどに携わる。現在、大阪を本拠に、商業デザインの仕事と並行して、自主制作に努めている。1992年以来、「タイポグラフィック・リフレクション」シリーズを発行、現在11号まで発行されている。著作に『タイポグラフィ・トゥデイ』(1980/2015年) 誠文堂新光社、『バーゼルへの道』(1997/2003年) 朗文堂。『helmut schmid: design is attitude』がフィヨドル・ゲイコ編集・デザインにより2006年バーゼルのビルクホイザー社より発行される。

exhibition
November 9 (m) to
December 22 (t) 2015

gallery talk
November 9, 16:00 - 17:30
helmut schmid
kyoto ddd gallery
entrance free
please reserve in advance

opening party
November 9, 17:30 - 19:00
kyoto ddd gallery

会期
2015年11月9日^月 - 12月22日^火

ギャラリートーク
日時 11月9日^月 16:00 - 17:30
出演 ヘルムート・シュミット
会場 京都 ddd ギャラリー
入場無料、要予約、定員40名
ギャラリーホームページより
お申込み下さい。

オープニングパーティ
日時 11月9日^月 17:30 - 19:00
会場 京都 ddd ギャラリー

特別講義
日時 11月26日^木 17:00 - 18:30
講師 ヘルムート・シュミット
会場 京都造形芸術大学 望天館1階
B11ホール

入場無料、予約不要、定員100名、
当日先着順
詳細はギャラリーホームページを
ご参照ください。

共催 京都造形芸術大学

kyoto ddd gallery
10 Uzumasa Kamikeibu-cho
Ukyo-ku Kyoto-shi
616-8533

open weekdays 11:00 to 19:00
saturday until 18:00
closed sunday and holidays
entrance free
no parking lot

京都 ddd ギャラリー
京都府京都市右京区太秦上刑部町10
616-8533
tel 075-871-1480
fax 075-871-1267
開館時間 11:00 - 19:00
土曜は18:00まで
日曜・祝日休館 入場無料
駐車場無

www.dnp.co.jp/gallery/ddd/

地下鉄東西線 太秦天神川駅1番出口徒歩3分、
嵐電嵐山本線 嵐電天神川駅 徒歩5分
市バス・京都バス 太秦天神川駅前下車

